

## 平成 28 年度南予地方局予算の実施状況 (H29.3.31 現在)

- 1 予算事項名 加工用果樹産地化等実証事業費
- 2 事業期間 平成 26 年度～平成 30 年度
- 3 所 管 産業経済部産業振興課産地育成室
- 4 事業概要

宇和島市、松野町、鬼北町及び JA えひめ南は、(株)源吉兆庵と農林水産物の生産及び安定供給に関する協定を締結し、高級和菓子の原材料となるくりやもも、びわ、かきなどの加工用果樹の産地化を早急に図る必要がある。そこで、植栽した苗木の早期成園化を図るとともに、省力化に向けた技術実証などを行う。また新たな加工用果樹の現地適応性実証や新たな用途開拓の推進を図り、生産者の所得向上に繋げる。

	平成 28 年度
予算額	1,312 千円

### 5 28 年度の事業実施状況

#### (1) 加工用果樹の省力的安定生産技術の推進

##### ① 加工用もも省力生産技術実証

果肉着色対策として、袋かけ作業に代わる技術を実証した。

1回目:6/10 2回目:6/23 実施

○慣行の紙袋被覆は、100 枚被覆する時間は、32 分 56 秒であった。一方サンテ被覆は、18 分で約 15 分の時間短縮ができた。

○サンテ被覆の腐敗果は、裸果・紙袋に比較して、同程度で実用上問題は無かった。

○サンテ被覆は、ほとんど着色してなく、紙袋と同程度であった。

○樹体被覆実証では、遮光による落葉・樹体衰弱は、見られなかった。

○樹冠が小さい若木で実用可能と思われた。収穫時は、若干作業性が悪かった。



省力被覆実証【5-(1)-①】

##### ② 低樹高栽培による品質向上及び省力化技術実証

昨年に引き続き、低樹高樹形にしたくり(筑波)の結果母枝数を通常の2倍にし、果実の大きさを比較した。

○結果母枝数を2倍に残すと収量は 1.46 倍に増えた。1果重は約 85%になり若干小玉となった。脚立不使用の省力せん定方法実証を現地圃場で実施。



防草シート【5-(1)-③】

##### ③ 早期成園化実証

くりでは、黒色防草シートとピートモスマルチが生育が良好であった。しかし、防草シートは、草刈機のローターにからんで作業性が著しく悪化した。ピートモスは、施用量が少ないと雑草が多く発生した。

(2) 新たな加工用果実の実証(おうとう(さくらんぼ)、西洋なし、もも)

① 加工用果樹の適応性実証

年間を通して幼木管理を実施し、樹形検討をおこないせん定した(2/6)。市田柿の中間台木の適応性確認については、5品種で高接ぎを実施した。

(3) 新たな用途開拓の推進

① 加工品の開発支援

もも(大久保)7月上旬収穫後、産業技術研究所の協力で加工特性の把握、一次加工品を検討中。

市田柿は、10/25に収穫し、100果を源吉兆庵に送った。100果は産技研で加工特性及び一次加工品(ドライフルーツ)を作成した。

② 用途開拓推進検討会

6月14日(火)に1回目を開催し、加工業者及び関係機関が加工品の利用について協議した。



市田柿ドライフルーツ【5-(3)-①】

(4) 加工用果樹産地化推進

① 生産振興会議

生産振興会議を、くり・もも部門が4/12、7/15、9/29、11/30、1/24。かき・びわ部門が4/27、9/27、12/16、3/15に開催した。

② 早期成園化指導

下記の表の様に、早期成園化技術指導。栽培講習会などを実施。

	実施日	内容
市田柿	5/27、6/23、7/6,26、9/21、10/18,25,27、12/27	幼木管理・防除・収穫指導 栽培管理講習会
びわ	4/22、4/25、6/16、9/14、10/26、11/29、12/2,6,8、1/10,11,12	誘引・摘蕾指導 モデル園地栽培管理
もも	4/6,11,15,18,26、5/9,23,31、6/22、7/25、8/3,4,19,23、10/7,11、12/14、3/7	摘蕾・誘引・防除指導 栽培管理講習会
くり	4/13、4/21、6/8、9/1,2,9、1/16、1/18、3/14	収穫ネット設置指導 栽培管理講習会



かき・びわ生産振興会議【5-(4)-①】



市田柿せん定講習会【5-(4)-②】